

羊毛使い「ふわふわ」

7日、やまねのお守り作り

国の天然産物のヤマ自然ふれあいセンターは、木下さんが中心となって「やまねのお守り作り」を企画し、今年で三年目。あやかり、会館祈願や願いが叶うお守り作りを身近に感じてほしいと、高根町清里の県立六ヶ岳



思いを込めて作る「やまねのお守り」

毛作りを行う。ニードルと呼ばれる針先に細かい突起が付いている道具を使って羊毛を編み込んで行くもので、編み込み方によつては、柔らかくなつたり、固くすることもでき、大きさを自由に調整出来る。形が整ったところでヤマネの特徴になる黒い線を背中に入れ、目や耳、鼻などを付けてオリジナリティのお守りが完成する。また、スタンプする「ヤマネの話し」も行われ、自然の大切さを伝えていく。完成した「やまねのお守り」は、キーホルダーやペンダント、ぬいぐるみとして制作する人が多く、「お礼の手紙が届く」と喜ぶ声も聞かれている。「スタンプの鈴」

木一江さんは話し、「お守りは、自分(制作者)に似た作品になります」と不慮をうに語る。教室は、二月七日の午前十一時半と午後三時で、詳細は電話48・2900まで。